

The Hawaii Hochi

February 29, 2012

老人ケアホーム「ハレホアロハ」を視察した元横網朝青龍（右）と中村哲也氏（ハワイ報知）



元横網 朝青龍、老人ホームを視察 母国モンゴルで設立を夢見て

元横網朝青龍（本名ドルゴルスレンギーン・ダグワドルジ）が28日、パシフィックハイツ・ロードの老人ケアホーム「ハレホアロハ」を視察に訪れた。

同施設は日本のIMS（イムス）グループが経営する高級老人介護施設。同グループは現在病院32、老人保健施設16、病院17、看護学校2を運営しており、同族のTMG、AMGを合わせた中央医科グループ全体では日本国内最大規模で病院経営、医療事業を行なっている。

IMSグループの中核を成す板橋中央病院理事長で医学博士の中村哲也氏は、長年朝青龍のみならず家族の健康管理をし

てきた。

現在は活動の舞台をモンゴルに移している朝青龍は、日本と比較して医療介護の分野で遅れている母国に理想的な老人介護施設の設立を夢見ているという。日本の施設は既に数多く見て来ており、この度、アメリカの施設も見るためにハワイを訪れた。

ハレホアロハの内部をつぶさに視察した朝青龍は自然環境の良さはもとより、医療施設独特の薬のにおいの無さに感心。アットホームな雰囲気も気に入った模様。

総合医療に携わり日本やアジアの医療レベルの向上に力を注いでいる中村氏は「今後は特に予防医学が必要」と力説。「怪

我や病気の予防に一際神経を配り、特別に恵まれた身体でないにもかかわらず大記録を打ち立ててきた朝青龍は自己管理未病の重要性を理解している」と語る。

今回ハワイのケアホームを訪問し、自分の目で確かめた朝青龍は「モンゴル政府にも進言もするが、こういう施設を必要としているお年寄りがモンゴルにも沢山いる。自分としてはのんびり、待つていられない」と語り、夢の早期実現に強い意欲を見せた。

尚、朝青龍は現在、モンゴル体育省役員、レスリング協会会長としてロンドン五輪の出場選手の強化育成をしているという。